

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：34311

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02228

研究課題名(和文) 博愛社と大阪社会事業の総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Research on Hakuaisha and Osaka Social Work

研究代表者

倉持 史朗 (Kuramochi, FUMITOKI)

同志社女子大学・現代社会学部・教授

研究者番号：70411056

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：日本に現存する社会福祉施設として最も長い実績をもつ施設の一つである社会福祉法人・博愛社(大阪市)に所蔵されている史資料の整理・保存作業に取り組みつつ、それらを活用した歴史研究を進めている。具体的には博愛社研究に関連してキリスト教福祉実践者に関する研究論文や戦前社会福祉の公私関係に関する研究論文が分担者たちによって発表されている。また、重要な資料である施設機関誌の目録を作成(データベース化)し、機関誌誌面のデジタルデータと合わせて活用する体制が整った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

同社に所蔵されている史資料を活用して博愛社ならびに大阪社会事業に関する歴史研究を積み重ね1955年以前に関する研究成果を研究書として刊行する準備を整えている。また、博愛社の機関誌の目録作成および点検作業が終了し22年3月からデータベースとして活用することが可能となった。これにより、1890(明治23)年から1939(昭和14)年までの約50年間の施設状況や関係者並びに当時の関西地方を中心にした社会事業の動き等、研究資料として活用することが難しかった機関誌を活用した研究業績が見込まれる。さらに研究チームのみならず社会福祉史関係者たちの研究に資するために目録集(目次集)する準備を進めている。

研究成果の概要(英文)：While working on organizing and preserving historical materials held by the social welfare corporation Hakuaisha (Osaka City), one of the facilities with the longest track record as a social welfare facility existing in Japan, Specifically, research papers on Christian welfare practitioners and research papers on public-private relations in prewar social welfare have been published by the co-authors in relation to the Hakuaisha research. In addition, a system was established to create a catalog (database) of the institutional magazine, which is an important resource, and to use it together with the digital data of the magazine.

研究分野：社会福祉学

キーワード：博愛社 キリスト教 小橋勝之助 小橋実之助 林歌子

## 1. 研究開始当初の背景

近代化・資本主義化の過程で我が国では深刻な社会問題が発生し多くの慈善・社会事業団体が興ったが、行政の関与・支援は不十分であった。加えて太平洋戦争によって都市部を中心に甚大な戦災に見舞われたわが国において、明治期からの社会福祉状況に関する史料を有する施設は僅かであり、その施設が所有する史料の調査・保存作業が行われた研究事例は家庭学校・福田会育児院・岡山孤児院(現・石井記念友愛社)などわずかに数例である。本研究の対象となる博愛社は前記の通り日本有数の歴史と活動実績を有する施設ではあるが、阪神大震災の被害も加わって100年以上におよぶ活動記録や保有史料を把握できておらず保存状態は劣悪となる一方であった。そのような状況において2001年1月より室田・倉持・原が史料調査に着手したのが本研究の発端となり、以来、社会福祉学、歴史学の研究者をはじめ施設職員などで研究チームを組織して研究活動を継続している。

博愛社に関する研究を概観すると、それまで一次史料を用いた本格的な研究は創設者・小橋勝之助に焦点をあてた西村みはる『社会福祉実践思想史研究』(ドメス出版・1994年)のみであった。そこで史料調査・保存作業を進めつつ研究実績を重ね「大阪『博愛社』の総合的研究-大都市における児童保護の歴史的検証」(基盤研究C:2007-09年度)、「大阪『博愛社』の歴史的研究」(同左:2010-12年度)、「大阪『博愛社』の研究」(同左:2013-15年度)、「大阪『博愛社』創立125年の総合的研究」(同左:2016-2018年度)と科学研究費助成を受けて、我々は着実な研究を進めてきた。さらにそれらの成果は2018年の大阪歴史博物館の特別展(「100周年 大阪の米騒動と方面委員の誕生」)にも多くの貴重史料・情報の提供を行うなど、これまでの史料調査・研究活動をさらなる社会貢献へと広げている状況である。

## 2. 研究の目的

本研究は、大阪で福祉(児童・高齢者・障害者等)・教育活動(幼稚園)を行う社会福祉法人博愛社(以下、博愛社)と大阪地域の慈善・社会(福祉)事業の展開について歴史的かつ多角的に研究を行う。同社は、創設以来約130年にわたる同社事業や関連人物、戦前日本の社会事業の中心地ともいべき大阪地域に関する一万点以上の史料を所蔵する。これらはまさに日本福祉史の実態解明のための貴重な史料群である。本研究ではこれらの貴重史料の整理・保存作業を進め、同時に史料目録・翻刻等を公刊し、それらを用いて実証的な歴史研究に取り組む。

## 3. 研究の方法

本研究期間においては(1)継続的に史料整理作業などを進め、(2)下記に記した4つの研究課題に取り組む。

### (1)史料の整理・保存・翻刻作業

a)複数の重要文書が綴じられた簿冊の再分類と目録作成作業、b)書簡・ハガキ類の整理、保存、目録作成、翻刻作業、c)小橋勝之助、小橋実之助、小橋カツエなど中心的人物の日記翻刻作業、d)1955年以降の博愛社関連史料の整理、保存作業

### (2)研究課題

a)育児・教育事業 博愛社の中心的事業である育児・教育事業の実態解明を進める。具体的には第1に、ケース記録を用いた児童処遇の内実を明らかにする引き続き研究を行う。第2に、明治後期から始まった「里預け」(現在の里親委託に相当)事業の拡大と縮小、大正後期からの乳児院としての施設機能の拡充の経緯について、第3に入所児に対する学校・職業教育の展開とその教育内容等についても明らかにする。さらに第4に、戦時体制下と戦後以降の博愛社をめぐる時代情勢と同社の育児事業の実態にも迫る。

b)女性保護・母子保護事業 大正期以降の博愛社は母子保護事業や母子保健に関する相談事業にも取り組んでいく。また、先述のように林歌子らは矯風会の活動にも参画し、大阪婦人ホームを設立して女性保護事業にも取り組むようになる。これらの事業の実態と博愛社本体の事業との関連を解明していく。

c)国内外の関連する人物や団体 博愛社の創設と運営にあたっては多くの人物や団体が参画・協力している。本研究においては第1に、皇室と博愛社の関係、第2にキリスト教、とりわけ聖公会(および関係団体)やCCF(Christian Children's Fund)などとの連携・協力について解明していく。特に、戦後の混乱期における博愛社の児童保護事業(課題a)を明らかにするにあたっては海外の諸団体からの支援の実態を明らかにすることは重要である。

d)大阪地域の慈善・社会(福祉)事業との関連 先述のように、博愛社は二代社長・小橋実之助によって大阪社会事業連盟など民間事業の組織化においても中心的な役割を担っていた。そこで、大阪地域の慈善・社会事業との関連について、特に同地域の社会事業の発展に博愛社が果たした貢献について解明していく。

#### 4．研究成果

##### (1)史料の調査・整理・保存とデジタルデータ化作業

博愛社に所蔵されている史料を整理し恒久的に保存する作業に取り組み、1955年以前の史料を中心に約3,500点を保存箱等に収納し、仮史料目録（『博愛社所蔵史料仮目録』2010年・全167頁）に基づき作成時期が古く特に貴重なものについては一点ずつカメラ撮影しデジタルデータ化している。本期は約20000コマを撮影し100点弱の貴重資料についてはPCなどで研究メンバーが活用できる体制を整備している（2023年3月月現在）。本研究プロジェクトの拠点は大阪市内にある社会福祉法人博愛社である。同施設は特別養護老人ホームや児童養護施設、障害児者施設等と同じ敷地内で運営し、そこでは日々たくさんの利用者と職員が生活を共にする場でもある。したがって、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行が収束が見えない中、研究活動を理由に同施設内に立ち入ることができず、整理・保存・デジタルデータ化作業については当初の予定の3分の1程度に止まった。

##### (2)機関誌の目録(目次集)の作成，データベース化

長年の懸案であった博愛社の機関誌(博愛雑誌/博愛社月報/博愛乃園)の目録作成および点検作業が終了し22年3月からデータベースとして活用することが可能となった。これにより、1890(明治23)年から1939(昭和14)年までの約50年間の施設運営や職員・入所児童の状況などの把握が容易となった。さらに研究チームのみならず社会福祉史関係者たちの研究に資するために目録集(目次集)する準備が進んでおり、研究資料として活用することが難しかった機関誌を活用した研究業績が見込まれる。

##### (3)その他の研究成果

これまでの研究活動と成果をふまえ、博愛社創立から戦後(1955年)までを対象とした研究書の刊行準備をおこなっている。すでに同書を構成する研究論文はすべて脱稿しており、論文数16本・400頁におよぶ研究書を2023年度内に刊行し、社会福祉や歴史学界、社会一般へ広く学術成果を還元できると考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 室田 保夫	4. 巻 70
2. 論文標題 水崎基一研究：「北海道バンド」の一員として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 キリスト教社会問題研究 = The Study of Christianity and Social Problems	6. 最初と最後の頁 119 - 147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/00028673	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 室田保夫	4. 巻 27
2. 論文標題 熊谷鉄太郎の生涯と思想	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 関西学院史紀要	6. 最初と最後の頁 121 - 156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 今井小の実	4. 巻 62(4)
2. 論文標題 軍事救護法の成立と福祉行政の成立	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会福祉学	6. 最初と最後の頁 1 - 16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 倉持史朗	4. 巻 17
2. 論文標題 博愛社における教育事業の展開 博愛社普通学校創立と「キリスト教主義」・「実業的教育」をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代社会フォーラム	6. 最初と最後の頁 35, 61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 室田保夫	4. 巻 69
2. 論文標題 林歌子研究 - 大阪婦人ホームを中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 キリスト教社会問題研究	6. 最初と最後の頁 61, 89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 室田保夫	4. 巻 27
2. 論文標題 熊谷鉄太郎の生涯と思想	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 関西学院史紀要	6. 最初と最後の頁 121, 156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高岡裕之	4. 巻 58
2. 論文標題 社会福祉 (社会事業) 史と「福祉の歴史学」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『社会事業史研究』	6. 最初と最後の頁 11, 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高岡裕之	4. 巻 233
2. 論文標題 「飯田報告へのコメント：大阪府方面委員会制度の歴史的性格をめぐって」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 部落問題研究	6. 最初と最後の頁 102, 114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井小の実	4. 巻 12(1)
2. 論文標題 愛国婦人会と社会事業一大正後期の山口支部の活動に焦点をあてて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 HumanWelfare	6. 最初と最後の頁 71-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蜂谷俊隆	4. 巻 102(3)
2. 論文標題 『月刊福祉』のはじまり 『慈善』を読み解く—原胤昭「児童虐待防止事業」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊福祉	6. 最初と最後の頁 56-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蜂谷俊隆	4. 巻 102(8)
2. 論文標題 『月刊福祉』のはじまり 『慈善』を読み解く 新渡戸稻造「慈善の要は自己の心を頌つにあり」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊福祉	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 蜂谷俊隆	4. 巻 103(2)
2. 論文標題 『月刊福祉』のはじまり 『慈善』を読み解く 矢吹慶輝「欧米社会事業統制機関としての連合慈善会に就て」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊福祉	6. 最初と最後の頁 58-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高岡裕之
2. 発表標題 高度成長期日本の社会変動
3. 学会等名 東北大学日本学国際共同大学院第3回国際カンファレンス・シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高岡裕之
2. 発表標題 近現代日本における「人口問題の時代」
3. 学会等名 新潟大学人文学部シンポジウム「総力戦と社会変容—歴史研究とメディア研究の再後討」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高岡裕之
2. 発表標題 「戦後社会運動」の論じ方について—『戦後社会運動史論』第1認の論考を中心に—
3. 学会等名 大阪歴史科学協議会11月例会「社会運動史研究の現状と課題を考える」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今井小の実
2. 発表標題 愛国婦人会と社会事業—大正後期の山口支部をフィルターに—
3. 学会等名 社会事業史学会第47回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今井小の実
2. 発表標題 愛国婦人会と室事救護法－当時の愛富婦人会本部の動向と山口支部の活動に焦点をあてて
3. 学会等名 日本社会福祉学会第67回秋季大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 大月英雄、高岡裕之	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 368
3. 書名 「生きること」の問い方	

1. 著者名 高岡裕之(笹川裕史編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 292
3. 書名 現地資料が語る基層社会像	

1. 著者名 室田保夫(石野常久編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉備人出版	5. 総ページ数 325
3. 書名 慈愛と福祉 岡山の先駆者たち 2	

1. 著者名 高岡裕之(黒川みどりほか編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 現代史料出版	5. 総ページ数 274
3. 書名 戦中・戦後の経験と戦後思想 一九三〇―一九六〇年代	

1. 著者名 比較家族史学会、小島 宏、廣嶋 清志(高岡裕之分担執筆)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 328
3. 書名 人口政策の比較史	

1. 著者名 室田 保夫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 304
3. 書名 山室軍平	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	今井 小の実  (Imai Konomi)  (20331770)	関西学院大学・人間福祉学部・教授   (34504)	
研究分担者	陳 礼美  (Chen Li-mei)  (40510160)	横浜市立大学・国際教養学部・教授   (22701)	

## 6. 研究組織(つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	蜂谷 俊隆 (Hachiya Toshitaka) (50351705)	美作大学・生活科学部・准教授  (35306)	
研究分担者	元村 智明 (Motomura Tomoaki) (60340022)	東北福祉大学・総合福祉学部・准教授  (31304)	
研究分担者	室田 保夫 (Murota Yasuo) (90131614)	同志社大学・人文科学研究所・嘱託研究員  (34310)	
研究分担者	高岡 裕之 (Takaoka Hiroyuki) (90305491)	関西学院大学・文学部・教授  (34504)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大月 英雄 (Otsuki Hideo)	滋賀県立公文書館・歴史公文書専門職員	
研究協力者	高市 勢津子 (Takaichi Sestuko)	大阪キリスト教短期大学・幼児教育学科・教授	
研究協力者	原 佳央理 (Hara Kaori)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中西 真  (Nakanishi Shin)	帝京科学大学・医療科学部・助教	
研究協力者	佐野 信三  (Sano Shinzo)	大阪婦人ホーム・理事長	
研究協力者	長野 泰信  (Nagano Yasunobu)	社会福祉法人博愛社・理事長	
研究協力者	大野 定利  (Ono Sadatoshi)	博愛社・元施設長	
研究協力者	浅井 靖久  (Asai Yasuhisa)	博愛社・職員	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関